

5. 緑の質

6. 緑の質

(1) 土壌の状況

1) 調査方法

調査に使用した検土杖の形状は、写真 6-1 に、基本断面調査の形状は、写真 6-2 に示すとおりである。



写真 5-1 長谷川式大型検土杖の形状



写真 5-2 基本断面調査の形状

2) 調査内容

ア. 層位（基本断面調査・簡易断面調査）

計画地のような造成域では、造成基盤が人為的に著しく攪乱されているために、明確な層位がないことが多い。このような場合は、土色や土性等の変化している部位で土層を区分した。なお、以下に示す項目は、区分した層位ごとに調査した。

イ. 土色（基本断面調査・簡易断面調査）

土の色をマンセル表色系に準じた「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）で観察した。一般に土色が黒色に近づく程、腐植質に富み、肥沃な土壤であると判断できる。

また、青灰色や緑灰色の土壤は、還元土（酸素の欠乏した土壤）である可能性があり、このような土壤が根域層に出現すると植栽樹木の根が窒息死し、その程度が著しい場合は枯死する。なお、表示例を以下に示す。

- ・表示例：腐植質の土壤の場合 7.5YR3/3 は暗褐色
還元的土壤の場合 2.5Y3/3 は暗オリーブ褐色

ウ. 土性（基本断面調査・簡易断面調査）

指の間で土壤を磨り潰し、その感触により、表 5-1 に示す基準で判定した。

一般に埴壤土（CL）、重埴土（HC）、砂質埴壤土（SCL）の場合は粘質で、このような土壤が根域層でみられると、不透水層を形成する可能性が強く、雨を帯水させ、根腐れの原因になる。一方、砂土（S）や砂壤土（SL）の場合は砂質で、土壤養分の不足や乾燥しやすいことが問題となる。

表 5-1 土性の判断基準

判定法	土性名（略号）
ほとんど砂ばかりで、ねばり気を全く感じない。	砂土（S）
砂の感じが強く、ねばり気はわずかしかない。	砂壤土（SL）
ある程度砂を感じ、ねばり気もある。砂と粘土が同じくらいに感じられる。	壤土（L）
砂はあまり感じないが、サラサラした小麦粉のような感触がある。	シルト質壤土（SiL）
わずかに砂を感じるが、ねばる。	砂質埴壤土（SCL）
わずかに砂を感じるが、かなりねばる。	埴壤土（CL）
ほとんど砂を感じないで、よくねばる。	重埴土（HC）

エ. 乾湿（基本断面調査・簡易断面調査）

指の間で土壌を磨り潰し、その感覚で①乾、②半湿、③湿、④多湿、⑤過湿の5段階を表5-2の基準により判定した。

土塊が多湿、過湿を示すと土壌中の水分含量が多すぎるといえ、その部位あるいは下層土で雨水が停滞している可能性があり、根腐れの原因となる。

表 5-2 湿りの判断基準

区 分	状 態
乾	土塊を強く握っても掌に湿り気が残らない。
半 湿	土塊を強く握ると掌に湿り気が残る。
湿	土塊を強く握ると掌がぬれるが、水滴は落ちない。 親指と人差指の間で強く押すと水がにじむ。
多 湿	土塊を掌で強く握ると水滴が落ちる。
過 湿	土塊を掌に乗せると自然に水滴が落ちる。

オ. 可塑性（基本断面調査・簡易断面調査）

可塑性とは、力を加えると変形し、力を除いたときにその変形を保持する能力を表す。土壌を親指と人差指の間でこねまわし、棒状の形にできるかどうかを観察し、表5-3の基準により判定した。

可塑性が強い場合は、粘性が強く不透水層を形成していることがある。また、可塑性が弱い場合は、砂分が多く乾燥しやすい等の問題点がある。

表 5-3 可塑性の判断基準

区 分	状 態
なし	全然棒状に伸ばせない。
弱	かろうじて棒状になるが、すぐに切れてしまう。
中	直径2mm内外の棒状に伸ばせて、こね直すのに力を要しない。
強	直径1mm内外の棒状に伸ばせて、こね直すのにやや力を要する。
極 強	長さ1cm以上の極めて細かい糸状に伸ばせて、こね直すのにかなりの力を要する。

カ. 還元性（ $\alpha-\alpha'$ ジピリジル反応）（基本断面調査・簡易断面調査）

断面に現れた土壌の還元（酸欠）の状況を $\alpha-\alpha'$ ジピリジル酢酸の反応により示される色の程度により、①-（反応なし）、②±（若干反応）、③+（反応）、④++（著しく反応）、⑤+++（強い反応）の5段階に区分した。一般に反応が認められた場合、その土壌は雨水や地下水の停滞により還元状態にあり、硫化物の影響により植物の根系に悪影響を及ぼし、その程度が著しい場合は枯死する。

キ. 腐植（基本断面調査・簡易断面調査）

腐植とは、土壌に含まれる有機物のことであり、その含有量の目安は、表5-4に示すとおりである。

自然地では、落ち葉や枝等、植物が堆積し、それが微生物の活動により分解し、腐植層となり、膨軟で緩衝力のある豊かな土壌が形成される。一般に腐植の多い少ないについては、土色が黒色系か褐色系なのかで判定する。

表 5-4 土壌の腐植（有機物）含有量の判定目安

区 分	基 準	明度による判定の目安
あり	<2%	5~7 (明色)
含む	2~5%	4~5 (やや暗色)
富む	5~10%	2~3 (黒色)
すこぶる富む	10~20%	1~2 (著しく黒色)
有機質土層	≥20%	≤2 (軽しようにて真黒色)

出典：「改訂新版 土壌調査ハンドブック」（令和3年5月 日本ペドロジー学会編）

ク．土壌硬度（基本断面調査）

土壌硬度は、山中式土壌硬度計を用いて測定した。平坦に削った断面に対して直角の方向に硬度計を押しあて、その円推部のつばが断面に密着するまでゆっくり水平を保ちつつ押し込み、その侵入の深さをmm単位で読み、表示した。土壌が固いほど、硬度計の読みが大きくなる。土壌硬度計での測定値が 20 mmを越えると、その土壌は根系の発達を阻害する。一方、土壌硬度が低く、柔らかすぎる場合は、低支持力・乾燥等の問題が発生する可能性がある

表 5-5 土壌硬度の判断基準

山中式土壌 硬度計の硬度	植栽基盤としての判定	
指標硬度	根の侵入の可否	硬さの表現
27.0 以上	多くの根が侵入困難	固結
24.0~27.0 未満	根系発達に阻害あり	硬い
20.0~24.0 未満	根系発達に阻害樹種あり	締まった
11.0~20.0 未満	根系発達に阻害なし	軟らか
11.0 未満	根系発達に阻害なし（低支持力・乾燥のおそれ）	膨軟過ぎ

ケ．石礫含量（基本断面調査）

土壌に含まれる礫（径 2 mm以上の粒子）の大きさと含量を観察し、表 5-6 に示す基準で区分した。礫が 50%以上と多く含まれると根系の発達を阻害する場合がある。

表 5-6 石礫の判断基準

区 分	判断基準
なし	礫が全く存在しない。
有り	礫の占める割合が断面の 5%に満たない。
含む	〃 が 5~10%のもの。
富む	〃 が 10~20%のもの。
頗る富む	〃 が 20~50%のもの。
礫土	〃 が 50%以上のもの。

コ. 植物根の分布状況（基本断面調査）

土壌断面中に現れる根の分布量を観察し、表 5-7 に示す基準で区分した。

表 5-7 植物根の分布状況の判断基準

区 分	判断基準
なし	根が全く存在しない。
有り	根の切り口の面積の割合が断面の 5%に満たない。
含む	〃 が 5～10%のもの。
富む	〃 が 10～20%のもの。
頗る富む	〃 が 20%以上のもの。

サ. 土壌構造（基本断面調査）

一般に土層内では、砂土や粘土等がそれぞれにつまっているのではなく、いろいろな大きさや形状をした集合体を形成していることが多い。これらは土壌構造と呼ばれ、土壌の生成環境をよく反映し、土壌の生産力とも密接な関連がある。土壌断面で観察した土壌構造を、表 5-8 に示す基準で区分した。

団粒状や塊状の場合は、植物の根系の発達に有利であり、壁状になると根系の発達が阻害されるようになる。また、単粒状、粒状を示す場合は、乾燥しやすい土壌条件である。

表 5-8 土壌構造の判断基準

区 分	判断基準
団粒状	膨軟で多孔質な数mm程度の小粒の構造で、指間で容易につぶれ、ほとんど抵抗を感じないもの。湿潤な土壌に発達する。
粒状	比較的小型（2～5 mm程度）で、丸みのある固くて緻密なもの。指間でつぶすとかなり抵抗を感じる。乾きやすい土壌に発達する。
角塊状	稜角およびつやのある面が比較的是っきりし、一般に大きさは 1 cm以上で内部は緻密。乾燥が繰り返される粘質な土壌に発達する。
亜角塊状	比較的丸みがあり、表面のつやは弱く内部もそれほど緻密ではない比較的大型の構造（一般に 2 cm）。乾質に偏しない土壌の主に下層土に出現する。
単粒状	砂丘の砂のように各粒子がバラバラで、互いにくっつき合っていないもの。
壁状	土層全体が緊密に凝集し、一定の構造を認めることができないもの。常時湿潤な土壌の下層土に多く、通気・透水性が一般に不良である。

シ. 地下水位（基本断面調査）

土壌断面に湧水などが出現した場合に、その水位を測定した。

(2) 樹木活力度調査結果

計画地周辺地域における樹木活力度調査結果は、表 5-9～6-12 に示すとおりである。

表中の備考に記載されている数値は、地上で枝分かれした幹の個々の幹周を示す。なお、規格欄の幹周には各幹周の総和の 70% を記載した（国土交通省土木工事共通仕様書に準拠）。

同樹種かつ規格及び樹木活力度が同程度の個体が近傍に生育していた場合には、その本数を記載した。スス病に罹患していた個体の備考には「スス病」、ハムシによる被害（食害）が見られた個体の備考には「ハムシ」、サンゴジュハムシによる被害（食害）が見られた個体の備考には「サンゴジュハムシ」とそれぞれ記載した。なお、枯損していた個体の備考には「枯損」、剪定されていた個体の備考には「剪定」と記載した。

表 5-9(1) 樹木活力度の調査結果（地点：日進町公園）

番号	樹種名	区分	性状	形状・寸法				樹木活力度									備考		
				樹高 (m)	枝張 (m)	幹周 (cm)	本数 (本)	樹勢	樹形	枝伸長量	枝葉密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	活力度指数		活力度判定	
1	ヤブツバキ	常広	中木	2.5	1.5	15	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.13	A	
2	マテバシイ	常広	高木	7.0	3.0	95	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
3	マテバシイ	常広	高木	3.5	2.0	90	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.00	C	
4	ヒイラギモクセイ	常広	高木	3.0	3.0	35	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	30, 20
5	ヤマモミジ	落広	高木	4.0	5.0	69	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
6	エゴノキ	落広	高木	4.0	4.0	55	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1.25	A	34, 45
7	エゴノキ	落広	高木	4.0	2.0	54	1	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2.38	B	50, 27
8	ヤマモミジ	落広	高木	4.0	3.0	52	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
9	エゴノキ	落広	高木	4.0	3.5	80	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1.13	A	40, 40, 34
10	ヤマモミジ	落広	高木	3.5	3.0	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
11	エゴノキ	落広	高木	3.0	2.5	31	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1.13	A	22, 22
12	グッケイジュ	常広	高木	5.0	3.5	90	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	スス病
13	オオムラサキツツジ	常広	中木	1.5	1.0	-	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
14	サツキ	常広	低木	1.0	1.0	-	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
15	グッケイジュ	常広	中木	1.5	0.8	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	
16	サザンカ	常広	中木	2.0	1.5	8	18	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1.25	A	5, 5, 2
17	サンショウ	落広	中木	1.5	1.0	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
18	トベラ	常広	中木	1.5	1.0	-	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
19	シャリンバイ	常広	低木	1.2	0.8	-	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
20	ヤブツバキ	常広	中木	2.0	1.5	22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	8, 8, 8, 8
21	ランタナ	常広	低木	0.8	1.5	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
22	ヒイラギモクセイ	常広	高木	3.5	2.5	42	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	20, 20, 20
23	ヤマモミジ	落広	中木	2.0	2.0	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
24	オオシマザクラ	落広	中木	2.5	2.0	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	8, 8, 8, 8, 8
25	オオシマザクラ	落広	高木	3.5	4.0	35	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
26	ランタナ	常広	中木	1.5	2.0	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
27	オオシマザクラ	落広	中木	2.5	3.0	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
28	サザンカ	常広	中木	2.0	1.5	13	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	10, 8
29	アツバ キミガヨラン	特殊	高木	7.0	1.5	63	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	50, 40
30	チョウセン アサガオ	落広	高木	3.0	4.0	60	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
31	サザンカ	常広	中木	2.0	1.0	11	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.63	A	5, 5, 5
32	ヒイラギモクセイ	常広	高木	3.0	3.5	25	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	20, 15	
33	ユスラウメ	落広	低木	1.0	2.0	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
34	ガクアジサイ	落広	中木	1.5	1.5	-	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	

表 5-9(2) 樹木活力度の調査結果 (地点：日進町公園)

番号	樹種名	区分	性状	形状・寸法				樹木活力度									備考		
				樹高 (m)	枝張 (m)	幹周 (cm)	本数 (本)	樹勢	樹形	枝伸長量	枝葉密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	活力度指数		活力度判定	
35	シャリンバイ	常広	低木	1.2	1.0	-	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
36	バショウ	特殊	中木	1.5	2.0	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
37	ハマヒサカキ	常広	低木	1.2	1.0	-	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
38	シャリンバイ	常広	中木	2.5	3.0	21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	15, 15
39	クスノキ	常広	高木	9.0	4.0	110	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
40	ヤマボウシ	落広	高木	6.0	3.0	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
41	ユッカSP ^{注)}	特殊	中木	2.5	1.0	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	10, 10
42	ケヤキ	落広	高木	8.0	4.0	95	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
43	ヤマモモ	常広	高木	6.0	4.0	85	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
44	オオシマザクラ	落広	中木	2.5	3.0	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	5, 5, 5
45	ケヤキ	落広	高木	10.0	6.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
46	ヤマモモ	常広	高木	4.0	3.0	40	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
47	ケヤキ	落広	高木	9.0	4.0	170	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
48	ヤブツバキ	常広	高木	3.0	2.0	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
49	ヤマモモ	常広	高木	6.0	4.0	70	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
50	クスノキ	常広	高木	10.0	5.0	90	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
51	ケヤキ	落広	高木	11.0	5.0	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
52	モモ	落広	中木	2.5	2.5	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
53	オオムラサキツツジ	常広	低木	1.2	1.0	-	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	ハムシ
54	ランタナ	常広	低木	1.2	2.5	-	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
55	アジサイ	落広	低木	1.0	2.0	-	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
56	ナツミカン	常広	中木	2.0	1.0	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	
57	ユキヤナギ	落広	低木	1.2	1.0	-	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
58	ピラカンサス	常広	中木	1.8	1.5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A		

表 5-10 樹木活力度の調査結果 (地点：西口さくら緑地)

番号	樹種名	区分	性状	形状・寸法				樹木活力度									備考		
				樹高 (m)	枝張 (m)	幹周 (cm)	本数 (本)	樹勢	樹形	枝伸長量	枝葉密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	活力度指数		活力度判定	
1	クスノキ	常広	高木	6.0	4.0	90	1	3	3	1	3	1	1	1	1	1	1.75	A	
2	クロガネモチ	常広	高木	4.0	3.0	68	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
3	ソメイヨシノ	落広	高木	4.0	5.0	70	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
4	ヤマモモ	常広	高木	4.5	3.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
5	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	7.0	110	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1.13	A	
6	ソメイヨシノ	落広	高木	7.0	6.0	70	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1.13	A	
7	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	8.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
8	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	8.0	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
9	ソメイヨシノ	落広	高木	6.0	9.0	110	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1.38	A	
10	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	8.0	100	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1.25	A	
11	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	6.0	95	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.63	A	
12	ヤマモモ	常広	高木	4.0	5.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
13	オオムラサキツツジ	常広	低木	1.2	0.8	-	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
14	オオムラサキツツジ	常広	低木	1.0	0.7	-	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
15	キンモクセイ	常広	中木	2.0	1.0	5	30	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	

表 5-11 樹木活力度の調査結果（地点：西口さんかく公園）

番号	樹種名	区分	性状	形状・寸法				樹木活力度										備考
				樹高(m)	枝張(m)	幹周(cm)	本数(本)	樹勢	樹形	枝伸長量	枝葉密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	活力度指数	活力度判定	
1	クスノキ	常広	高木	4.5	4.0	25	1	3	2	2	2	3	2	2	3	2.38	B	
2	メタセコイア	落針	高木	9.0	4.0	80	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
3	カナメモチ	常広	中木	2.5	2.0	15	2	1	1	1	2	2	2	2	2	1.63	A	
4	キンモクセイ	常広	中木	2.5	2.0	10	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
5	カナメモチ	常広	高木	3.0	2.0	20	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
6	クスノキ	常広	高木	5.0	5.0	60	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1.25	A	
7	キンモクセイ	常広	中木	2.5	1.5	18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	5, 5, 5, 5, 5
8	シラカシ	常広	高木	6.0	6.0	70	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
9	クスノキ	常広	高木	8.0	5.0	90	1	2	1	2	2	2	2	2	3	2.00	B	
10	シラカシ	常広	高木	5.0	6.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
11	シラカシ	常広	高木	5.0	5.0	70	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
12	クスノキ	常広	高木	8.0	6.0	90	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2.13	B	
13	シラカシ	常広	高木	8.0	5.0	45	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
14	カナメモチ	常広	高木	3.0	2.0	15	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
15	キンモクセイ	常広	中木	2.5	2.0	11	4	1	1	1	2	1	1	1	2	1.25	A	8, 8
16	キンモクセイ	常広	中木	2.5	2.0	11	3	2	2	2	2	2	2	2	3	2.13	B	3, 3, 10
17	キンモクセイ	常広	中木	2.5	1.5	11	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00	D	枯損 5, 5, 5
18	アジサイ	落広	低木	1.2	1.0	-	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
19	ユキヤナギ	落広	中木	1.5	1.5	-	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	

注) SP: 現地確認において属レベルでの同定は可能であったが、種の特定までは行っていない樹種を指す。

表 5-12 樹木活力度の調査結果（地点：上並木公園）

番号	樹種名	区分	性状	形状・寸法				樹木活力度									備考	
				樹高(m)	枝張(m)	幹周(cm)	本数(本)	樹勢	樹形	枝伸長量	枝葉密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	活力度指数		活力度判定
1	ケヤキ	落広	高木	8.0	4.0	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
2	ケヤキ	落広	高木	10.0	6.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
3	アオギリ	落広	高木	5.0	3.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
4	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	6.0	90	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
5	ソメイヨシノ	落広	高木	5.0	7.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
6	ソメイヨシノ	落広	高木	6.0	5.0	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
7	ソメイヨシノ	落広	高木	6.0	7.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
8	アオギリ	落広	高木	7.0	3.0	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
9	コブシ	落広	高木	8.0	3.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
10	ナンキンハゼ	落広	高木	8.0	3.0	80	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
11	アオギリ	落広	高木	8.0	4.0	90	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
12	サンゴジュ	常広	高木	6.0	5.0	98	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	サンゴジュハムシ 70,70
13	トウネズミモチ	常広	高木	5.0	4.0	28	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	20,20
14	イチョウ	落針	高木	12.0	5.0	120	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
15	コブシ	落広	高木	7.0	3.0	70	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
16	アキニレ	落広	低木	1.2	1.0	-	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
17	アベリア	常広	中木	1.5	2.0	-	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
18	アキニレ	落広	高木	8.0	6.0	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
19	マテバシイ	常広	高木	5.0	4.0	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
20	マテバシイ	常広	高木	4.0	1.5	80	1	2	3	2	3	2	3	2	2	2.38	B	
21	マテバシイ	常広	高木	6.0	4.0	70	1	2	2	2	2	2	3	2	3	2.25	B	
22	ナンキンハゼ	落広	高木	9.0	7.0	95	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
23	ケヤキ	落広	高木	18.0	10.0	378	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.13	A	70,70,100,100,100,100
24	コクチナシ	常広	低木	1.0	1.5	-	30	1	1	1	2	1	1	1	2	1.25	A	
25	ヤマモミジ	落広	高木	3.0	4.0	70	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
26	マテバシイ	常広	高木	4.0	3.0	80	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
27	マテバシイ	常広	高木	8.0	6.0	90	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
28	ヤマモミジ	落広	高木	3.0	3.0	70	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	
29	マテバシイ	常広	高木	4.0	2.0	70	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2.13	B	
30	ソメイヨシノ	落広	高木	4.0	6.0	150	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
31	マテバシイ	常広	高木	5.0	4.0	84	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	60,60
32	シャリンバイ	常広	中木	2.0	2.0	25	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.13	A	剪定 15,20
33	マテバシイ	常広	高木	4.5	3.0	112	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	90,70
34	カキノキ	落広	高木	7.0	3.0	65	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
35	マテバシイ	常広	高木	5.0	4.0	90	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1.25	A	
36	クスノキ	常広	高木	7.0	4.0	70	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2.00	B	
37	ケヤキ	落広	高木	8.0	7.0	150	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
38	トウネズミモチ	常広	高木	4.0	5.0	63	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	15,15,15,15,15,15
39	クワ	落広	高木	4.0	4.0	32	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	15,15,15
40	マテバシイ	常広	高木	5.0	4.0	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
41	マテバシイ	常広	高木	5.0	4.0	70	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2.13	B	
42	ナンキンハゼ	落広	高木	7.0	3.0	120	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1.13	A	
43	ソメイヨシノ	落広	高木	6.0	4.0	110	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	
44	スダジイ	常広	高木	7.0	5.0	90	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00	A	

(3) 基本断面調査結果

地点 A における土壌断面の形態は、写真 6-3 に示すとおりである。

有機質の分解や堆積などにより、自然的に形成された土壌の層位は認められず、造成など人為的な影響を強く受けた土壌形態である。土壌分類における土壌型は、造成土に区分される。

地表下 30cm までオリーブ褐色の碎石層であった。この碎石層は、駐車場造成時に敷設されたものと推測できる。地表下 30cm 以下全層にわたり、暗オリーブ褐色の腐植分に乏しい、やや強い可塑性のある砂質埴壤土 (SCL) が存在していた。造成重機による転圧等の影響を受けて固結しており、コンクリート夾雑物に頗る富む建設残土であった。土粒子間に隙間の無い、壁状構造であるため、植物根の発達は乏しかった。また、多湿な状態であり、酸欠を示す還元反応が若干認められた。

なお、地下水は、認められなかった。



写真 5-3 土壌断面の形態 (地点 A)

(4) 簡易断面調査結果

簡易断面調査結果は、表 5-13 に示すとおりである。

計画地の土壌は、地表下 30cm 以下に腐植に乏しい暗オリーブ褐色の劣悪土が広く分布している。

これらの土壌には、①固結、②水分の過多、③やや強い可塑性がある（透水・通気性不良）、④還元状態、⑤腐植不足などの植物生育上の阻害要因が存在している。このため、植栽基盤として利用することは適当ではないと考えられる。

調査区域における土壌断面の形態としては、次のような 2 つのパターンに区分できる。

①分類Ⅰ 地表面の碎石層以下は、コンクリート夾雑物に富む劣悪土（若干還元）が分布

②分類Ⅱ 地表面の碎石層以下は、コンクリート夾雑物に富む劣悪土が分布

表 5-13 地点毎の土壌分類

簡易試孔調査地点	土壌分類
b、c	分類Ⅰ
d、e	分類Ⅱ

なお、確認された土壌の特徴等は、表 5-14 に示すとおりである。

表 5-14 全層に出現する土壌の特徴と植物に現れる障害

調査項目	調査結果	植物に現れる障害等
土色	ほぼ全域にわたり、暗オリーブ褐色系の土壌がベースになっており、養分不足であることが推測できる。	養分欠乏による活力の低下
土性	やや粘り気のある砂質埴壤土（SCL）である。	透水・通気性不良による根腐れ
乾湿	採取した土塊を強く押すと、水がにじむあるいは滴り落ちる状態であり、湿から多湿の状態である。	水分過多による根腐れ
可塑性	直径 2mm 内外の棒状に容易に伸ばすことができ、こね直すのに力を要する状態であることから、可塑性のある土壌である。	不透水層形成による根腐れ
還元反応 ($\alpha-\alpha'$ ジピリジル 反応)	分類Ⅰ区域では、土（若干反応）が見られ、還元状態である。	還元状態では、根系の窒息死
腐植	土色が暗オリーブ褐色であり、腐植の含有量は、2%前後またはそれ以下である。なお、植物の残渣（腐葉土など）は認められない。	緩衝力不足による抵抗力の低下

